

東北地方交通審議会第3回観光戦略部会議事要録

日 時：平成16年1月29日（木）14:30～16:40

場 所：仙台サンプラザ 宮城野

出席者：恩地部会長、清水部会長代行、青木臨時委員、野崎臨時委員、遠藤芳雄専門委員、佐藤潤専門委員、志賀専門委員、津嶋専門委員、中谷専門委員、山川専門委員、竹森専門委員（代理：青森県藤岡文化観光推進課副参事）、小原専門委員（代理：岩手県田中観光課長）、遠藤正明専門委員（代理：宮城県桃生観光課長）、野村専門委員（代理：山形県佐藤観光振興課課長補佐）、丹野専門委員（代理：福島県太田地域経済領域総括参事）、佐藤正一郎専門委員（代理：仙台市黒田商工部参事）
久米東北運輸局長、大野東北運輸局次長、長濱企画振興部長、小森交通・観光計画調整官、田鎖交通・観光計画調整官、江原企画課長

次 第

1．開 会

2．審 議

議題 「観光戦略部会中間報告(案)について」

(1) 事務局説明

(2) 質疑、意見交換

(3) その他

3．閉 会

1．開 会

事務局（江原企画課長） ただいまより東北地方交通審議会第3回観光戦略部会を開催させていただきます。

部会長に議事進行をお願い申し上げるまでの間、私が進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいいたします。

本日の部会では、緊急に実施すべき観光振興方策を中心とした中間報告につきまして、前回のご審議の際のご意見、その後の情勢変化等を踏まえ、事務局で追

加いたしました案を説明させていただき、ご審議を賜りたいと思っております。

続きまして、本日ご出席の委員の皆様をご紹介申し上げたいと思いますが、時間の関係もございますので、お手元に配付させていただいておりますご出席者名簿により代えさせていただきます。

それでは、これからの進行につきましては、恩地部会長にお願い申し上げたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2. 審 議

恩地部会長 本日はご参集ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。

議題の「観光戦略部会中間報告（案）について」ですが、まず事務局より前回の素案からの変更点を中心にご説明をお願いします。

事務局（江原企画課長） それでは、事務局の方から説明させていただきます。

案の説明に入ります前に、本日ご審議をいただきます中間報告（案）の部会スケジュールの全体における位置づけについて改めて説明を申し上げます。

経緯といたしまして、まず、昨年3月、地方交通審議会への諮問を受けまして、観光振興に関する専門的なご審議をいただくため、この観光戦略部会が設置されたところでございます。昨年3月の諮問に対する答申は、諮問から2年後、つまり今から概ね1年後の平成16年度末ごろにお願いしたいと思っております。本部会の最終報告につきましても、概ねその時期にお願いをしたいと考えておるところでございます。

しかしながら、観光をめぐる地域間競争が非常に激化している現状を踏まえますと、その中で東北の観光というものが勝ち抜いていくためには、他地域より一歩でも先んじて強力な取り組みを行っていく必要があると。こういった考えから、最終報告に先立ちまして東北地方の観光振興のための緊急に講ずべき施策につき本部会でご提言を賜りたく、本日、中間報告についてのご審議をお願いするものでございます。

なお、緊急に講ずべき施策を中心とした中間報告をいただきました後は、緊急施策に迅速に取り組んでまいりますとともに、本部会において引き続き施策の実施状況等も踏まえながら最終報告に向けたご審議をお願いしたいと考えている次

第でございます。

それでは、早速中間報告（案）のご説明に入らせていただきます。

（資料2により説明）

事務局からのご説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

恩地部会長 ありがとうございます。

ただいま事務局から中間報告（案）についての説明をいただきました。

早速、審議に入りたいと思いますが、先ほど来、特に緊急提言というところで8項目ほど述べていただいたものは皆様ご同意いただけると思いますが、特に「YOKOSO! JAPAN THE 祭り東北」キャンペーンが来月というような具体的な取り組みも進んでいるということを中心強く承ったわけでありましたが、ぜひそれをより効果のあるものにしていただくために皆様のご意見をいただきたいと思います。

ただいまの事務局の説明をご吟味いただいて、ご意見、所感、新たな提案等をお持ちの方々に順番にご発言をいただきたいと思います。

いかがでございましょうか。

それでは、最後に総括をいただきますが、YOKOSO! JAPAN東北実行委員長であられる清水委員から来月のキャンペーンについて補足と進捗状況ということで口火を切っていただけますでしょうか。

清水委員 先ほどビジット・ジャパン・キャンペーンにつきまして会議をやりました。関係者の方がほとんど重複してございますので、動きについてはご存じだと思いますけれども、2月16日に東北運輸局並びに国土交通省の絶大なるご支援を受けまして、東北で初めて一体となってビジット・ジャパン・キャンペーンの第1回イベントを行うことになりました。この中間報告案にありますけれども、“東北が一体となって”というところが今回のビジット・ジャパン・キャンペーンの“みそ”だと思います。東北というのはまだまだ認知度が低いところがございますので、そのイメージ形成をするためには、個々の力を分散させるのではなくて、どうやってみんなでベクトルを合わせて大きな力にしていくかというところが課題だと思います。そういった意味での第一歩が2月16日に行われるということだと思います。どうぞこれを契機に東北6県一体となつていろいろやっていくことについて、よろしく願い申し上げたいというふうに思います。

併せまして、私どもも国内旅行の商品造成あるいは送客のかなりの部分を担っ

ておりますが、その中で、私の経験で申し上げます。北東北だとか南東北というように安易に分けがちなところがありますが、私は首都圏の人あるいは関西圏の人たちから見た場合にも、やっぱり東北というのは一つの括りの中であって、その中で、例えば秋保温泉があったり、あるいは田沢湖があったりと、多くの方がそういう捉え方をされているのではないかなと思っております。そういった意味で、私どもも八戸開業を契機に北東北キャンペーンを大々的に行ってまいりましたが、来年度からは東北全体の括りの中でキャンペーンを行っていきたいということを実は考えております。

そういった意味で、このような連携だとか一体化だとかといった言葉については、ぜひ具体的な活動を伴ってやっていきたいと思っておりますし、各県にもよろしくお願い申し上げたいと思っております。

ただ、それはあくまでそういったキャンペーンといいますか、ベクトルの合わせ方の問題でございまして、観光地、温泉地がそれぞれ磨きを上げて光輝いていくということがまず大前提で不可欠だろうと思っております。そのような意味で、今回のこの中間報告案というのは非常によくまとまった中身ではないかなと感じております。

恩地部会長 清水委員のお褒めの言葉で、事務局もほっと一安心というところではないかと思っております。

青木様、このたびは叙勲おめでとうございます。今の清水委員のお話をお聞きになってご感想をいただければと思っておりますが。

青木委員 ここまで観光というのが取り上げられるようになったというのは、古くから携わっている者にとっては、全くびっくりする出来事でございます、ありがたいなと思っております。

最後の「緊急に取り組むべき施策」という部分でございますけれども、ここでインバウンドのキャンペーンが随分取り上げられております。一番最後の項目ででしょうか、キャンペーンに参加した人たちから意見をデータとして集めて、それをみんなで共有して反映させていくというような部分がありますが、これは真に我が意を得たりという感じです。インバウンドに限らず、それからまた東北全体に限らず、各行政機関が、それから商工会議所等を含め、よくキャンペーンをやります。そのキャンペーンが本当に役に立っているものなのかどうか。ただやり

っ放しというようなものでないことを祈るわけですが、そういう意味で、このデータ、効果の測定といいますか、そういうものを今後やっていくということについては、両手を挙げて賛成いたします。ぜひやっていただきたいと思いません。

今回の八戸新幹線のように、はっきりした形で効果の出るものは別としまして、福岡なら福岡へ行って仙台の七夕を見せて帰ってくる。駅前ですべての人の人にどんな効果があったかというようなことを、例えば行った直後、インターネットのアクセスがふえるとか、あるいは電話での問い合わせがふえるとか、資料の請求がふえるとか、いろんなデータがあると思うのですが、それを今後一層やっていって、次につなげていただきたいと思いません。

それから、少し話は変わるかも知れませんが、外国との関係でいけば、お互いの問題ですから、ある地域に的を絞ってキャンペーンを行うとなると、我々としてもそこに出かけていく必要があるんじゃないのかな、ちょっとそんな気がいたします。

恩地部会長 今の出かけていくというのは、日本人の観光客もそちらに行く必要があると。1,700万人を2,500万人ぐらいまで持っていくと。

青木委員 いや、どこに行くかというより、例えばポートランドならポートランドから来ていただきたければ、こちらでもポートランドの宣伝をしてあげるとか、お互い様だということですね。そういうことがなければ来ないのじゃないだろうかという感じもしないでもない。

恩地部会長 これは、姉妹州（県）とか東北が今後、例えば中国の北部というようなことがありますけれども、それにも非常に参考になるご意見ではないかと思いません。

きょうは、ぜひ時間の許す限り皆様に余り型にはめないでご意見をいただきたいと思っております。

今の青木委員のお話を聞いて思い出しましたが、ちょうど私も5年前に宮城大学へ参りました。私どもというのは皆様のよう意思決定機関ではございませんので、いろいろな委員会等に参画して、一応調査はいろいろとございましたが、その追跡調査をなかなかやらせてもらえなくて欲求不満であったと。今、私も運輸局の仕事に4年間かかわらせていただきまして、本当にその流れが一つひと

つずっとつながっていているということを実感として感じられるわけでありまして、何とかこれをこのまま2年後、3年後、そして東北が光輝くようにというふうになってほしいと願っております。

いかがでございましょうか。

丹野委員（代理：太田総括参事） 福島県の商工労働部でございます。

先ほど清水委員からお話がありましたように、東北の顔をどうするか。そういった中で、中間報告には統一したような問題とか連携とかブランド化と、そういったことで随所に入っていると。まさに東北の顔をどうするのだというような色彩が非常に出ておるのかと、こんな感じをいたしておりまして、非常に私ども心強く思うわけでございます。

ただ同時に、これは清水委員の先ほどのお話しにもちらっとありましたが、各県の観光資源というものがそれぞれございます。そういった中で、各県の観光資源をどのように各県の事情の中でやっていくかということと同時に、それを積み上げた形で統一化的な視点が出てくるという当然なる発想があるわけでございます。

私、初めて読ませていただきましたが、その中で17ページに、ブランド化のところではいろいろと表現がされております。の中程からちょっと下の方ですが、「すでに」以下に、北東北とかあるいは県単位でイメージづくり、PR活動が積極的に実施されており、こういう取り組みを“尊重しながら”というふうにされています。まさに私もそのとおりだと思います。それを尊重しながら、それを踏まえながら、いかに統一性をどうつくっていくかということであろうということでありまして、これは非常にいいことが書いてあるなと思ったんです。

ところが、11ページの「連携」の、の方ですと、何かぼやっと入っているのです。そういった色彩の話はあるのですが、明確に連携するのだけれども、その連携のベースというのがまさに各県といいですか、私どもの事情で申しわけございませんけれども、各県の観光資源、そういったものの状況というものを十分尊重しながら、しかも連携しながらといったような表現があれば私どもにとっても非常に幸いかなとまず一つ思ったところでございます。そういうことで、この「連携」という意味の中にそういったことが若干でも入らないのかなというのが私からの要望でございます。まず、それが1点です。

それからもう1点は、細かい話で恐縮ですが、資料の15ページをご覧くださいと思います。の「産業観光の推進」ということで、まさに観光と物産は表裏一体でございまして、私ども昨年7月に「コラッセふくしま」という物産館と観光情報コーナーを設けまして、表裏一体で今、PRさせていただいております。観光と物産というのは表裏一体の部分がございまして、まさに産業観光ということで特出ししていただいたということは、流れの中で非常によろしいじゃないかなという感じはします。ただ、ちょっと見てみますと、表現の中に「地場産業やこけし、漆器等」とあるのですけれども、それと同時に、今の流れといたしますのは、むしろ外国向けにいきますと、例えば青森のリンゴとか、あるいは我が県のモモとか、さらには山形のサクランボとか、いろいろございます。あと、米もございます。それから、牛乳、肉の関係ですかね。米沢牛とかいろいろございます。そういった意味で、ここまで書いてあるのであれば、東北の顔というのはやっぱりその辺だろうと思うのです。ですから、そういったものも若干盛り込んでいただきながらやっていければ、まさに東北の顔、統一性、ブランド化、そういったものが打ち出されるかと、こんな感想を持ちました。

私初めて読んで、初めて出席していますので、一回議論された話かもしれませんが、そこは私勘違いして言っているかもしれませんが、そういったことで、統一性、ブランド化等々の話は非常によろしいかと思えます。ただ、各県の事情からいきますと、ちょっと付記をしていただければ幸いかなということでございます。以上でございます。

大野東北運輸局次長 まさに今のご意見は議論があったところでありまして、各県独自の取り組みとか北東北、南東北の取り組みというのはもちろん尊重しますし、実は前回、青森県の方から「余り東北、東北と言われても困るんだ」というご意見が出ましたから、調整を重ねました。先ほどの清水委員のご意見を見てもわかるように、余り個別ばらばらにやっても訴求力はないよというご意見もあります。役人的に逃げれば、そのバランスなんですけど、運輸局の立場から言いましても、国と地方というのは別でございますから、地方の取り組みについて棹さすつもりは毛頭ございませんけれども、ある部分オール東北でやっていかないと意味がないのではないかと考えていることは事実です。運輸局の意見としてもそうであります。ぜひこのあたりというのは、今度、県にいきますと、市町村がそれ

それに個別に実施したがりませんので、これはお立場が大変なのはわかるのですが、みんな同じ問題を抱えていると。ですから、それぞれでやることは尊重するけれども、全体の取り組みというのはこの程度協調していただいているのかなと思っております。

ただ、これは中間報告でございますので、最終報告に向けて一体どのように行っていったらいいだろうかと、案外真剣に議論するには価値があることなのかもしれないと思います。

それから、次に食のことで、これはまとめ方ですが、6ページの下段にかなり書いてございますので、その辺をごらんいただければと思います。よろしくお願いいたします。

恩地部会長 大野次長のお話のように、これをずっと引っ張っていきますと、世界が一つになってしまうという形もあるのではないかと思うのです。要するに東北地方でということ、福島県でということ、福島市ということと同時に、今度は日本対中国とか日本対ベトナムとか、そういう誘客ということのイメージづくりもあるのではないかと思います。こちらの場合には、私のいただきました使命というのは、やはり東北地方というものの中で皆さんが一つひとつご自分の商品力を活かして行って、しかもそれが一緒に連携した相乗効果が出てくるようなということだと思ってやっておりますので、今のご指摘は、運輸局のというよりも、皆さんのご意見収集の中で組み立てられたものだというふうに承知しておりますので、ひとつそのあたりでご了解をと思っております。

それから、「産業観光」につきましては、これはいろんな意味で評価がまだ非常にあやふやなところもございませぬものですから、初めてこういうような形で取り上げられたと。この辺については遠藤委員からこの後にお話が出るんではないかと思っております。これはそういう意味では新しい分野として、それこそエコツーリズムとか、そういうものを含めたものとしてとらえたというように太田さんもお考えいただければありがたいかと存じます。

ということで、今取り組むべき問題の(1)をお話しいたしましたので、(2)の「旅行商品造成促進のための体制」ということは、東経連の方でお進めになっていらっしゃるようでございますので、ちょっとご説明をいただければと思います。

遠藤芳雄委員 まずその前に、この報告書は大変よくできており、本当に感心して読ませていただきました。恐らく国内の運輸局で一番最初に出された大変素晴らしいものだと思っております。改めて感謝申し上げます。

24ページの(2)の「旅行商品造成促進のための体制の整備」について若干お話しさせていただきます。

東経連では、昨年5月に東北広域観光推進協議会を立ち上げ、外国人観光客を呼び込むためのプロモーション活動、東北の知名度を上げるための情報発信活動などを行ってきました。これらの活動を行っていて、東北に観光客を呼ぶ場合、例えば宿泊施設の手配とか、交通機関の手配とか、具体的なルートの作成などを一元的に行える機能が東北にはないというのが実態で、そういう中でどんどん外国人観光客をふやすというのは難しいのかなと思っております。

今まではホテルとか旅館の方が中心になって、その役割を果たしていたのが実態のようでございます。このため、東経連といたしましては、今後、このような分野にも支援をしていきたいと考えております。それで、例えばすぐに会社を設立して行うということになりますと、どの程度需要があるのかもまだわかりませんので、とりあえず3年程度、東北広域観光推進協議会に、東北地域への外国人観光客の取り扱いに関する調査検討を行う部門を設けて、その中で東北観光の総合窓口という機能を果たしていきたいと考えて今取り組んでおります。正式には16年度からの事業と考えておりますが、2月16日の山形での「YOKOSO! JAPAN THE 祭り東北」に間に合わせるような形でいろいろと整備を進めていきます。とりあえず総合窓口機能として必要な専用電話とか、メールを受けることのできるような設備を早急に整えたいと考えております。その後、専任の事務局員を置いて、そして総合窓口としての業務に当たっていききたいと考えております。

これにより、海外からの問い合わせとか、JRさんの切符の手配とか、いろいろなオーダーが来るのではないかと考えております。

そして、3年間データを集めて、これであれば何とか今後ともやっていけるということになった場合は、それなりの機能を果たす組織をつくって対応していく必要があるのかなと考えて、現在取り組んでいるところでございます。

恩地部会長 ありがとうございます。

お話のように、東北観光の総合窓口ということでございます。それを、先ほど

の青木委員のお話ではございませんが、東経連がやろうということで進めていくことは、大変革と言ってよろしいかと思えますし、私も観光屋でございますから、本当にありがたいことだと思えます。けれども、総合窓口をつくるには、各東北6県及び新潟県も含めてそういう情報が入ってこない限り、幾ら東経連が気合をかけてもということになると思うのです。そういう意味で、先ほどの福島県お話もございましたが、そのあたりの連携がこれから重要になってくると思うので、よろしくお願ひしたいと思えます。

野崎委員 緊急の対策の一番大切なのは、今の24ページの体制の整備だと思えます。ご承知のように、各市町村には観光協会などがあり、かなり市の予算をいただきながら、結構いろいろなことを行っています。しかしながら、例えば外国人の誘致なども、そこの方々が単なる海外旅行の一環みたいなつもりでキャンペーンを行って、各県とも市町村ともてんでんばらばらにそういうことを行っている。東北全体で、県なり市町村関係の観光協会の予算というと大変な数字になってくると思えます。しかし、今、東経連のお話にありますように、こういう個々の問題じゃなく、やっぱり東北全体でがっちりとした窓口をつくって、その組織体の中に、例えば観光協会だとかというものが入ってきませんと、窓口だけができて、従来どおり市町村では自分たちの狭い領域の中で、今までと変わらないものを続けていくことになると思えますので、24ページの(2)のこの部分についてもっと掘り下げて、これから実行案をどのようにするか、ここらをぜひ検討していただきたいと思えます。

恩地部会長 先ほど事務局からも話がございましたように、繰り返しになりますが、これは中間の報告ということで、あと1年をかけて今ご指摘のような部分をもう少し、各市町村の皆さんのところへ各県のきょうご出席の方々が説得できるところまでいくかどうかは別にいたしまして、そういう方向づけがかかっていくようなきっかけになればということだと思えます。したがって、きょうのこの中間報告では、今の野崎委員のご提言、それから遠藤委員の計画というものをそのまま受け取っていただいて、それをあと1年でどう具体化できるか。それから、残念ながら、まだ現在のところ民と官の間では必ずしもお互いの理解が十分に行き届かないようなところもあるようで、そこをこういう機会を通じて、また運輸局も一緒になって悩み考えるということにしていく第一歩になればと思いま

す。

本当はここで6県を代表してどなたかお一人と思うんですが、今のお話に対してということになるといけないかなと思いますけれども、決して批判とかそういうことで受けとめていただかなくて、今のご提言、それから、市町村と今度は県とも足並みをそろえて、そして、東北地方として足並みをそろえてということでは何かお感じになってらっしゃることはありませんでしょうか。いかがでございますか。

小原委員（代理：岩手県田中観光課長） 岩手県でございます。

まさにそのとおりであろうと思います。私ども行政の立場でありながらも、やはり観光振興なりというものは、いわば商売の世界でございます。そこで、具体的に観光客の方々に来ていただいて金を使っていただく。そのため、行政としてどうしても踏み込めない部分もなきにしもあらずとっております。具体的にいろんなことを進めるに当たって、これは東北全体でもそうですし、県全体で進める場合もそうです。そこに商売というものが絡んでまいりますので、どうしても難しい部分はございますけれども、少なくとも岩手県においては、基本的には運命共同体なんだという相互理解のもとに、費用負担なりをしながら一緒に取り組んでいるということかなと思っております。

しかしながら、現実には、旅行商品化とかなんかの段階になりますと、そういったものに組み込まれる、組み込まれないということで現実的に業界内部でも差が生じてくると。しかし、これは現実としていわば競争なり商売の世界でございますので、そこは皆さん口ではそう言いながらも、これはある程度ご理解いただいているのかなというふうに思っておりますので、これからは官民一緒になって取り組んでいくべきものだろうと考えております。

要は申し上げたかったのは、お話のとおり難しい部分はございますが、実効性の上がるような形で取り組んでいかないと、行政の場合も結果が求められる時代でございます。評価という言い方もしておりますけれども。ですから、先ほどの東経連がそういう窓口をつくっていただくのは、一步も二歩も前進だと思えます。ただし、それを東北の関係する宿泊施設ですとか交通関係ですとか、そういうところの人たちがきちっと支えていかないと、幾ら窓口ができて、いろんな照会が来たけれども、全然商売につながるような話の展開にならなければ、これは空中

分解してしまうわけでございますので、これは皆さん関係者の方々は十分ご承知かと思いますが、よろしく願い申し上げたいと思います。

大野東北運輸局次長 実は今度、山形で大きなイベントを行うのですが、そのときに大商談会を設けまして、96団体の方が参加されます。これは、それこそ市町村の観光協会の方もいらっしゃれば、個別の旅館・ホテルの方もいらっしゃれば、あるいはお土産物屋さんとか観光施設等、いろんな形の方がその商談会に出てくるということでありまして。東経連と運輸局と考え方は違うかもしれませんが、実は特に国際観光をこれから売っていこうというときに、護送船団はあり得ないと思うのです。非常に悪い言い方をいたしますけれども、例えばある一つの県でもすべての市町村の観光協会の気持ちを一つにそろえるなんてことはできるわけがありません。例えば、きょう佐藤委員いらっしゃいますが、国観連に加盟しておられるすべての旅館が国際観光に取り組むとは全く思っておりませんし、期待しておりません。ただ、この96団体が面白そうなことをやっっていこうじゃないかと言ったら、将来200とか300になっていくだろうと。500とか1,000になればもっといいと思うのです。そういう中で、東経連が例えば窓口となっただけ、外から問い合わせが来て紹介するのなら、その500とか1,000の中の方を選んで紹介して欲しい。会員制じゃありませんけれども、一緒にやっっていこうという人たちを取り込んで窓口にしていくしかないというような見方を実は運輸局しております。また私も言いたいことを言うものですから、きついことを言っていたら仕方がないんですが、こういう議論をしていますと、つつい護送船団に話がまわりますので、これは余りお勧めしないということだけ申し上げておきます。ただし、やりたいという方はたくさんいると思います。そういう方が増えてくると。そうすると、言葉は悪いですけども、「あいつだけうまいことをやりやがって」と思う方がまたそちらに興味を示してくる。これで東北の観光がどんどんよくなっていけばいいなというふうに心から思っている次第でございます。

恩地部会長 護送船団というのは、いろんな護送船団があると思います。今、大野次長のお話のような船に、みんなが乗りたいということで護送船団になれば、それは東北地方全体のプラスになってくるということだと思っております。今、田中観光課長のお話にありました結果を求められるということが、失礼な言い方ですけども、官の自治体の代表者の方から出るということも、今までのこういう話

し合いの中では出なかったことのように感じられます。私も前回まとめのところで使わせていただきましたが、危機感。じゃ北海道と東北地方では今どっちが危機感を共有しているのかとか、あるいは、今ございました結果が求められるということは、あるいは護送船団に乗りたいということは、それに乗ることによって結果が利と捉えられるようにならなければ、幾ら「乗ってください」と運輸局が旗を振っても乗ってくれないんだという観点から次期のこの検討会を進めていって、それで会員の皆様に少しでも貢献できるような、あるいは県民の皆様、市民の皆様に少しでも貢献できるようなものにつくっていくというのが我々の使命ではないかと。

少し偉そうに申し上げさせていただきました。続いて、どなたか、いかがでございますでしょうか。

津嶋委員 今回、あらかじめこの資料をちょうだいしましたので、改めて読ませていただきました。まず、目次を見てびっくりしたのですね。今さらびっくりする必要はないと思うのですが、いかに観光というのが関わりのある業態の多いかということが改めてわかりました。同時に、目次を見ただけで、観光というのは境がないなど。地域的な問題とかでいけば、境はないなど。

そこで、ここの場は恐らく東北という一つのまとまりの中でどういうふう売り込んでいくかということ、あるいは、どういう政策を打ち立てていくかということなのだと思うのです。そこで、中身的に私が大変感心したのは、それぞれの難しい項目を実にわかりやすく、非常に簡明に出していただいています。理屈をつけて書けばいろんなことが書けるようなことを、現実に沿った形で非常によくわかるような、訴えるような形にまとめられているということに私非常に今回感心いたしました。

それは、項目をずっと見ていきますと、東北という東ねだけじゃなくて、実は各県といいますか、各市町村なり産業の場に直接的に言っている部分、調査の結果などいろいろなことを踏まえて言っているものですから、非常にそこは訴えるのじゃないかと思うのですね。その捉え方は、先ほどから申し上げているように、簡明に打ち出されていますから、少し考えなければならぬようになっているのですね、実は。私はそこは非常にいいことだと思っております。

それに対して、5章の緊急に取り組むべき点の示し方は、非常に緊急なんです

ね。ですから、分析したり、いろんな必要なことはかなり簡潔に示されていて、だから、理屈的に絶対こんなことをやっていかなければだめだよということを書き並べてなくて、緊急的に取り組んでいくべきだということをも明快に示してあると思っております。

ご議論あった中で、私は実は見ている「東北ブランド」というのがございました。これがまさしく先ほど大野次長のお話と同じなのかも知れませんが、各県、あるいは県の中でも市町村の違いと特色があると思うのです。しかし、それを東北という形でどうまとめて売り込むかと。これが非常に大事なのだと思うのです。そのための窓口の話も出ました。全部観光の総合窓口で一本化できるというふうには私は思われません。かなり分けなければならない分野だと思うのですが、それがなかったわけですから、これが出ること、その提案というのはかなり貴重だし、それはまとめていくべきなのではないかという気がいたします。

何か礼賛に終わってしまいそうですけれども、実はもう一つ、先ほどもビジット・ジャパン・キャンペーンの予算が20億円から32億円に増えたというお話がありました。これは、ある意味では東北各県の方々がどう乗るかという問題だと思うのですね。予算が増えたから、それでやればということではなくて、どう乗っていただけるかと。残念ながら、経済界はどのぐらいそれに乗れるのかという話になりますと、ウーンということになるんですけれども、その乗り方の問題でチャンスだと思うのですね。そういう意味で、運輸局がこういう捉え方をしていた部分で、東北という意識をまず強めて、その中で当然特色のある部分を各県がある意味では売り込んでいく、あるいはそれを訴えて売り込むと。これがキャンペーンになっていくのではないかと思いますので、ここで非常にいい提案もなされたし、現実的な提案もなされておりますので、ぜひこれを実現していく方向でさらに引っ張っていただければありがたいなと思っております。

恩地部会長 ありがとうございます。

今の津嶋委員のご意見は皆さんも共有されるころだと思うのです。ただ一方では、きょうご出席なさっている皆さんもお読みになったと思いますが、1月7日から4回にわたって河北新報で連載された「観光王国東北の販売戦略」という記事では、相当辛口な、まだまだ他の地域に比べると東北の現状は厳しいよという指摘がなされています。もちろんそれに対する反論はいろいろあると思いま

すけれども、やはりこういうものを受けとめるべき環境であるということもあると思います。そういう意味で、この記事を書かれた丹野記者も、他の記者の方もきょう取材に来ていただいておりますので、各委員のご認識の意見開陳を聞いていただけるということは、個人的にはよかったと思っております。

津嶋委員 もう1点だけ。都市観光を取り上げていただきまして、ありがとうございました。

恩地部会長 都市観光、産業観光、エコツーリズム、いろいろな分野があります。

ただ、先ほど32億円に増えましたと。これだけ取ってまいりましたという意味合いではないと思いますが、そういうようなお言葉もございましたけれども、これは東北へ32億円ではございません。日本全体で32億円でございますから、その中で東北がどれだけ獲得できるかということは、人を使って、先ほど津嶋委員やほかの皆様方のお話にありましたような戦術と、それから熱意と危機感と、そういうものの集合ではないかと思えます。何か自分は評論家で横にいてこういうことを言っただけは失礼かと思えますけれども、また後ほどこの議論はあると思えますので、申し上げたいと思えますが。

さて、ブランドの話まではいきました。何かその先のことについて。中谷さん、どうですか。

中谷委員 航空会社の代表で出ております中谷でございます。よろしくお願いたします。

緊急に取り組む施策という部分でちょっとお話をさせていただきます。後半の部分に全部絡むとは思いますが、特に海外からのお客様の誘致という部分です。自社の話で大変申し訳ありませんが、私どもJALの方のグループはもともと出と入の格差が非常にありまして、これを埋めないと国際競争力が上がらないという考え方の中で、先日、一部業界紙にもその考え方を出しています。我々が今気をつけている部分は、東北、もしくは日本人としてもいいのですが、日本人が想定した例えば日本の良さ、東北の魅力というものを一方的に発信するだけではちょっと不十分であろう。そこで流れてくる情報、話題が退屈なものであれば、この情報というのは次第に形骸化してしまいます。発信する中身を吟味して、受け手にとって非常におもしろいものを発信する必要があります。ですから、自分

たちがいい素材だと思ふもの、PRしたいと思ふものが、果たして相手が興味を持っているのか、そこに食らいつくのかというギャップをまず認識しなければインバウンドの場合はいけないのではないだろうか。

ということで、たまたま私どもはグループで80の海外拠点がございます。80の海外拠点から人を全部集めまして会議を開きました。要は外国人の営業スタッフを全部集め、そして、その人間が日本の魅力をどう見ているのか、何に問題点があると思っているかを探ろうと。それで添乗員なしで全部旅行に出しました。添乗員つきじゃなくて言葉が不自由な形で日本の旅行をしてもらおうと。そこで問題点が、当然自分の目から出てくる、改善しなければいけないところ、それから、興味のあるところ。例えばどこどこ県が「この景色はいいです、いいです」と言っても、全然興味を示さないということもある。

先ほどの「YOKOSO! JAPAN THE 祭り東北」の話になりますが、あそこのビジュアルもまだ淘汰されていないので、結果的に自分たちがいいと思ふものを使おうとしている。ただし、外国の方々がそこに興味を持っているか、あのビジュアルがいいのかというところは、これから時間をかけて、次の年、次の年で改善していく必要があるという認識を持たないと、やはり自分のところがいいものだ、いいものだとしていても、なかなか受け入れられないという状況がありますので、海外と国内のお客様を受け入れるという場面においては、今後、こういう情報発信については、ひとりよがりにならないで、いろんな情報をいろんなところから集めて、常に毎年毎年改善していくという形でこの緊急提言の具現化を図っていった方がよろしいかというのが1点でございます。長くなって申し訳ありません。

あと、スキーのてこ入れというのがございました。これは大変我々も苦しんでいる問題でございまして、たまたま一番パイプの太い北海道スキーが今、前年の6割、40%減となっています。あれだけ札幌線が飛んでいる中で、スキー全体が4割減になっています。では東北はどうかということになりますと、私どもの集計ですと、1月27日現在で対前年度比56%。44%減です。特に蔵王の落ち込みが50%以上で、半減しています。蔵王、安比、八甲田、鱒ヶ沢、雫石、田沢湖、磐梯という各地のスキー場合わせての話ですが、このスキーのてこ入れをやっていかなければいけないというのは、まさにこれは私も大変同感な部分です。これは

全体的な問題で、雪が遅かった云々というのは全く関係ない話になっておりまして、完全にスキー離れが起こっているぞと。そのときに、JRさんがスキーに再度取り組むという大きな力が今動き出し始めていますので、そういう各機関、関係会社との連携で具体的に東北へ誘致するスキーを押し上げていくというようなことを関係機関がもう一度集まって、そういう具体的な形で進めていった方がいいのではないかと考えております。以上です。

恩地部会長 ありがとうございます。

青木委員のお話にもありました、いろいろなデータといいますが、マーケティングの情報をどう一つのところにまとめてアウトプットできるかというところは、まだ今のところではシステムができていないということが今のご指摘ではないかと思えます。ぜひ皆様の外国人社員の方のご報告などもまたご提供いただけるとよろしいかと存じます。

いかがでございましょうか。大分皆様の熱意も伝わってまいりようになりましたが。

山川委員 日本旅行業協会の山川でございます。

旅行商品の造成という立場でちょっとお話を申し上げますけれども、海外の体制の整備ということについては、大変結構だろうと思えます。ここに非常に造詣の深い方の意見を聞いていただきながら、活用をより有効なものにしていく必要があるのだろうと思えます。

今回の課題のキーワードは、海外からのお客様、冬の東北をどうするか、それから具体的には関西のお客様が非常に少ないと、こういう問題点は解決を早く問題ではないのかなと思えます。関西の人は、場合によっては東南アジアの方と同じぐらいのレベルで東北を理解しているのだろうと思えます。海外に対する商品造成の整備も、あるいは関西の方々に対する商品造成の体制整備も、他の後の項目とリンクしてくるだろうと思えますけれども、この辺もぜひ早急にやっていく必要があるのかなと私個人的に思いますが、いかがでしょうか。

我々エージェントが関西の方々によく話をすると、例えば宣伝が足りないとか、あるいは東北は北海道に比べて、航空運賃が高くて、価格競争には勝てないようだ。もろもろの問題がより具体的に我々に伝わってきますので、この辺をあわせて整備をしながら、それはひいては海外のお客様にも通じることだろうと

思いますので、この辺、皆様方のご意見をあわせてちょうだいできればと思います。

恩地部会長 ありがとうございます。

後ほど事務局からのご意見があると思いますが、私も、今、山川委員お話のように、ビジット・ジャパン・キャンペーンがイコール、あるいはニアリーイコールで西日本の集客のテーマにもなり得るのではないかと思います。ご案内のとおり、ビジット・ジャパン・キャンペーンが正面に出ておりますが、それを同じような、重要な主要な課題として、来期の検討材料の中には入れていく必要があると思います。

あとの海外及び冬、冬はスキーということに象徴されていますが、緊急のということでテーマとして出ておりますので、西日本の集客ということについての検討もこの中に含まれるということをお示唆の中から取り入れていただきたいと思います。

県及び仙台市の皆様はいかがでございますか。

佐藤正一郎委員（代理：仙台市黒田参事） 仙台市の黒田でございます。

すばらしい報告書で、特にデータ、資料編なんかは大変貴重なものだと思います。きのう、ちょっと事務局とお話ししたのですが、連携に関して一言。

当然、皆様いろんなことをおわかりになってお話しなさっていると思いますので、一つだけ希望といたしますか、「スピード」と「連携」と「オリジナリティ」と「地域づくり」の四つの視点といたしますか、方向があります。当然連携をしようとする、どうしてもスピードが遅くなる場合がなきにしもあらずですので、いろいろなやり方があると思いますが、連携の成功モデルというのをむしろ出していただいて、その成功要因を共有するという方法もあるのかなと。

同じような考えで、非常に報告書としてすばらしいのですが、さらに、だれがプレーヤーになるべきか、なった方がいいのかということがあると思います。これは我々も一緒になってやらなければならないと思いますし、中谷委員ですとかそういった皆様のご協力を得まして、成功の具体的事例、世界レベルのもの、アイランドとかヨーロッパとかいろいろあると思いますけれども、委員長初め皆さん情報をお持ちだと思いますので、季節変動の対策とか連携のモデルとか地域づくりのキーパーソンのあり方とか、そういったものをむしろ出して、この場で

お話しいただきたい。あるいは東経連といいますか、広域観光推進協議会の方で受ける際のいろんな情報、こんな反応がありましたと、こんなオファーがありましたといったものも含めて、それを共有化して、成功モデルとして、つくることになれば具体的に効果のあるキャンペーンとか提案ができるような仕組みができていいのではないかと思います。以上でございます。

恩地部会長 ありがとうございます。

情報というのは、共有化ということもテーマになりますね。今までの皆様のご意見の中でも相当データをもっと集約し集めよう、みんなが共有しようということがご提案としてありましたので、これはぜひ引き継いでいきたいと考えております。

いかがでございますか。志賀委員、どうぞお願いします。みんなで一緒にやるということはどういうことを志賀委員はイメージされるのかとか。

志賀委員 キーワードがたくさん散りばめられていまして、「連携」とか「スピード」とか、皆様のお話のように私もほぼ同じというか、全体構成としてはこういう方向なのだということはよくわかったような気がしております。あえて、ちょっとというところで申し上げるとすれば、多くの方を引っ張ってくる、来ていただくということは、ありがたいこと、うれしいことです。ビジット・ジャパンを初めとして東北の地に西日本からも、あるいは国外からも来ていただく。そのときに、どういう準備をして待っているのかという話で地域づくりということが11ページに書かれています。これは、よく言われるように車の両輪でして、連れてきても魅力のないところだったら困ってしまうわけで、それをこういうふうに地域づくりと一緒に考えていくという観光振興の方向性を打ち出す、これは本当に大切なことだと思います。その中でも、ここに何回も触れられていますが、東北ならではの、要するに東北の強みとか、東北の味とかを出そうとした場合に、なぜそれが東北なんだということが言いにくいところがあるなど思っています。あえてそれを私も考えると、13ページの の太い文字のちょっと上の方に、少し私も強く申し上げたところがあったんですが、日本の中で多くの地域で失われつつある農村の田園風景とか中山間地の景観など、要するに心のふるさとといいますか、日本の良さをいまだに持っているという地域が多いと。ここが非常に私の感ずるところ、売りといいますか、そういうものを都市とすぐの距離に

あるにもかかわらず、ちゃんと持っているというところが東北の売りだと。だから、二次交通とかもいろいろ整備していただく、あるいは乗りやすさも含めてしていく必要もある。それから、そういうところをすぐまちづくりとか地域づくりでつくるというふうな考えがちですが、14ページの「その他の留意点」というところに「魅力の維持・保全」と出ています。私は、時代背景として右肩下がりで縮小する、縮んでいくという日本の今の流れからいきますと、やはりこうした農山村が東北でどんどん消えていったら、東北の観光の要素というのは本当に激減してしまうのではないかと、あるいは魅力がなくなってしまうのではないかと、このような思いがありまして、強く残すというようなことを「その他」とかに置かずに、引き上げて東北の中山間あるいは農業といったものをしっかりと残すということを応援していくというような観光のあり方を提案してはかがかと思いません。

なぜかといいますと、よくよく考えてお祭りとかお盆とかお正月、みんな農山村への帰省、あるいはそこで育っている者とのつながりなんですね。そういうものがないと、東京から帰ってくる意味がなくなったりしてしまう。ほかの地域もありますが、西日本の場合は、大規模な農家が少ないとかいろいろ理由はありますが、コミュニティがかなりつぶれてきていますので、東北の良さというのは、そこに私は活路というか、他の地域に比べての特異性というか、特徴があると見受けられますので、この維持・保全といいますか、農山村をさらにもっともっと積極的に残していくということをしてしながら、東北の新しい観光をというようにしたらいかがかと思えます。「その他」というところではなく、引き上げていただいたらという気がしております。

恩地部会長 ありがとうございます。

今の志賀委員のお話は、実は強くご指摘があったということもありまして、打ち合わせのときに当然これは継続で、特に東北ブランド、これに苦戦したわけでございます。今こうやってごらんいただいて皆様のご評価がありましたように、大体のところはカバーしていますが、では東北のブランドというのは一体何をするのかと。その一つの大きなポイントとして、これもまた皆先送りみたいですが、来期が必ずあるわけですから、そこで志賀委員や皆様により具体的に検討していただいたらいかがかと思っております。東北ならではのものは

言うは易しでございまして、何をとらえても、それは信越にもあります、今度大野次長が行かれる北陸にもありますなんていうことになる分野でございまして、本当にこの東北ブランドというか、今の東北ならではのものは、あるいはその一つとして大きなものかもしれませんので、継続して持っていきたいと思っております。

地元の桃生課長、どうぞ。

遠藤正明委員（代理：宮城県桃生観光課長） 宮城県観光課の桃生です。

今、東北のブランドという話がありました。ブランドから外れるかもしれませんが、今回、国の方で32億円といった、昨年に比べて1.5倍に相当するビジット・ジャパン・キャンペーンの予算化に、正直感心しました。と同時に、もう一つ感心したのは、普段私は余り感心しないのですが、特に施政方針演説の中で小泉首相が「住んでよし、訪れてよしの国づくり」という言葉を使われたことです。これは良い言葉だと思いました。先ほどの志賀委員のお話にも通じるのではないかと思います、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」、この「国」を「東北」という置き換え方もできますし、「宮城」という置き換え方もできます。私はこの言葉が好きですし、特に「住んでよし」というのが一番気に入りました。それぞれの国、それぞれの地域、それぞれのブランドというのをいろいろ模索しながらやっていると思いますし、私たちもまず東北の特徴は何かを一生懸命探しながらやっています。自分たちの東北というのが、抽象的な言い方ですが、温泉地にしても良い温泉だ、自分たちが住んでみて良い温泉地だと思うような地域づくりが大切ではないかなと思っています。それで、具体的に、今、宮城県としてもこれから関心を持っていこうと思っている点があります。

一つ目は、宮城県に対する批判ですが、外国の方が来られて、宮城県ほど標識といますか、要するに外国文字での案内だと思いましたが、これが整備されていない地域は無いという話が一部の人から寄せられています。また、ロードマップの整備も遅れているという意見も寄せられています。改めて気づいたのも恥ずかしい話ですが、それら整備が必要ではないかと思えます。また、特に感じたのは、16年度の国の予算案では、新たにイギリス、ドイツ、フランスといったヨーロッパが重点市場という位置づけがされています。なおさらのこと東アジアの人たちと欧米の人たちとの旅行形態というのは大分違ってくると思いますし、これ

らの対応の仕方、その市場々々によっての対応の仕方というのを本気になって考えなければならぬのではないかと思います。

二つ目は、先ほど話がありました関西地方への対応の仕方だと思います。東北からは比較的関西の方に旅行で行っていると思いますが、逆に来られるのは少ないと思います。実は先月も関西の方に行きましたが、やはり関心度は薄いように感じました。東北から関西のことを知り、そしてまた関西人が東北にどのような印象や考えを持っているのかを聞いてみるのも大切なことだと思います。私自身そこから今一歩一歩進めておりますが、その中でキーワードとして考えなければならなかったのが、今の案内所を含めての県内の、また東北地方のルートマップづくりです。

三つ目は、今回の報告の中でも取り上げられておりますけれども、バリアフリーです。要するにこれは「住んでよし」にもつながると思いますし、比較的キーワードとして使えるのではないかと考えています。

恩地部会長 ありがとうございます。

確かに「住んでよし」というのは、キーワードとして今後もう一度かみ砕く必要がある言葉だと思います。私も4年になりますけれども、本当にいいところだと思うし、やっぱり東京から行くので三つ必ず出るのは、札幌、仙台、福岡でございます。ところが、地元のこちらの方は「でもね、東北は」というのがありますから、そのあたりの意識もやはり変えていく必要があるのもしれない。あるいは、そういうことを広報していく必要もあるし、それは逆に西日本へのPRも必要ということにつながるのではないかと思います。

そろそろ締めのところになりました。山形県の佐藤さん、せっかくですから、張り切ってやっておりますというところをお聞かせください。

野村委員（代理：山形県佐藤観光振興課課長補佐） 山形県の佐藤と申します。

今回の報告書の作り方というのは、すばらしい、具体的なもので、いいつくりになっているなと思っているところでございます。問題なのは、これをどうやって具体化していくかという、そこがこれからの一番のハードルかなと思ったところです。これだけすばらしいものができているのですが、ただし、行政としてネックになるのが、次のステップになったときに、民間が乗ってこないとか、市町村が乗ってこないという部分がありますので、そこをどうやってうまくクリア

していくか、そのためにどんな体制でやっていくのか、そこが大きいのかなと思っているところです。これを打破して持っていければ、すばらしい東北の魅力が発揮できるのかなと。

山形県も少しずつではありますけれども、やっと市町村の方に出向いていっています。今まではなかなか行かなかったのですが、うちの課長が行動派なものですから。山形県では今一番落ちているのが、宿泊観光です。そこを何とかしなければならぬということで。山形県44市町村に温泉が出ておりますものですから、温泉に泊まっていただくということで去年からキャンペーンをしております。清水委員もおいでになります、今年はJRさんと共同で7、8、9月で山形県の方でもデスティネーション・キャンペーンをさせていただくことになっております。その大きな目玉としまして温泉地の宿泊を増やしましょうということで、ピーク時から見まして平均で2割ほど落ちておりますので、そこを何とか回復していきたい。各温泉地ごとに県の方からも出向きまして、どうしようかと、取り組み頑張りましょうということでやった結果、何とか動き出したというところまで行っております。なかなかまだ腰が重くて動かない部分がございますが、この報告の中にも一つのすばらしいものがありますけれども、それをどうやってうまく使っていくのかで、それに合わせたような形でこれからの取り組みが必要になってくるのかなと思っているところです。

もう1点、今回、うちの方のキャンペーンの中でも「広域」というものを一つのキーワードとしておりまして、直接的には宮城県と蔵王の連携ということで。今までは山形の蔵王、宮城の蔵王と別々で売っていたところを、来ていただくお客様にとっては、宮城でも山形でも関係なく蔵王は蔵王だということで来ていただいているわけですから、その辺のところを行政の垣根を取り払いまして、境目のない観光ですので、その辺を取り組んでいるところでございます。また、南の方は福島とも会津と隣の米沢を連携させての事業展開も考えているところです。そこは、今まで点だったのが少し面的な広がりを持ってきたのかなと。その辺が東北6県の大きな面になって、その中で周遊していただくような方向性を持っていければ最高だなと思います。特に山形県も首都圏をターゲットでやってきているところでございますが、宮城県とタイアップすることによって関西の方からも入ってきていただくようなこともできますし、山形空港は小さい空港で、観

光の面では使いづらいたとこでございませぬので、宮城県の仙台空港を起点といたしまして宮城、山形を回っていただく。できれば東北も回っていただくような、そういうような形に持っていければ、今後の広がりが出てくるのかなと思っております。特に海外、アジアの方に行きましたら、なおさら山形県は国際空港を持っておりませぬので、宮城県の空港を利用していただいて山形の方にも来ていただくというようなことで、「広域連携」はこれからの本当に大切なキーワードであると思っております。

確かに南東北とか北東北という言い方はされておりますけれども、あくまでもこれは行政体の話ではないかと思ひます。我々が九州に行くときに、南九州とか北九州というイメージでは多分行かないのではないかと思ひます。ですから、それは受け手側の方の考えであつて、「東北は一つ」みたいな部分があつて、東北の中の山形県です、その中の何々市ですというようなイメージで持っていくのが一番いいのかなと考へてございませぬ。以上です。

恩地部会長 佐藤さんのお話の中にもありませぬし、部分的には皆様のお立場からしてある程度あると思ひますが、ここは一つクリアにしておかなければならぬと思ひます。緊急に取り組むべき施策というの、ある意味では、今度はこの中でどのような対応が各地域でできるのだろうかということ考へていただきたいということをお願い、かつ提案していると私は受け取つております。それで、今のお話のように、確かにまたこれからどのように施策が展開されるのかということはございませぬけれども、ただ、先ほどやや自画自賛的でありませぬが、この八つの中で既に動き始めているものが、先ほど遠藤委員からご説明ありませぬ(2)の点、それから、繰り返しになりますが、(1)では実際に2月16日の一大イベントが山形で挙行されるということ、このように具体的に既に走り出しているということをご評価いただいて、では宮城県は、では岩手県はということをお願いしたい。今、佐藤さんのお話にもありませぬように、山形県は広域連携では宮城と、あるいは福島とやっていると。ですから、そういうものをどんどん表に出していただいて、ではほかの県と一緒にやってみようというような形ができれば、国の予算も多く入ってくるのかなと、こういうことになるのではないかと思ひます。その辺を確認事項として、きょうのこの中間報告の提出のところで合意とさせていただければよろしいのではないかと思ひます。

それでは、佐藤委員、お願いいたします。

佐藤潤委員 それでは、手短にお話しさせていただきます。

私たちは、今までは国内観光というものに対して日本の全旅館の団体が全精力を尽くしてやってまいりましたが、やはりもう国内はある程度限界があるなというのが見え始めております。この限界というのは、来ていただけないということではなくて、各県でばらばらに自分たちだけの温泉地がいいとか、自分たちの県だけに来てほしいという形でやっているのは、お伺いする側が、あっちもこっちも来られるから、もうたくさんだと。余り熱意が入ってないようなこともたくさん感じておりました。

それから、今、インバウンドに向けて私どもは国内から国外に向けて行動をいたしておりますが、やはり国外に参りまして感じますのは、もう県でやってもどうにもならない。私も何度も伺いましたが、やはり東北ということ自体を説明することに、まず一番初めに苦労するというのが今の東北だと、そのように感じてまいっております。

このたび、オーガナイザーとしての運輸局がこのように私ども観光に携わる者、それから地方自治体の皆様とご一緒になって、ほかの世界の皆様、市場の皆様、また日本各地の大きな括りの地区の皆様といったお客さまにとって、魅力ある観光地に育てる戦いをしていくということでございますので、みんなで東北が「YOKOSO! JAPAN THE 祭り東北」という、大きなお声がかかりで東北地区という大きな括りで初めてエージェントの皆様をお呼びして、心を一つにしてみんなで東北を売るということができるといことは、私ども観光に従事している者にとっては、大変うれしいことだと思っております。

そして、私ども東北支部としていつも感じるのは、やはり東北を一つに括ってくれている東北経済連合会の皆様が進捗協議会という母体をつくってくださって、そして、そこで観光に対して一緒に行動をしてくれているということが大変私は誇りに思っております。日本全国のどこの地域の皆様にお聞きしましても、経済連合会と一緒にあって観光を本気になって売ってくれるというところはまだ出ておりませんので、大変ありがたいことだと思っております。

ただ、この間、ビジット・ジャパン・キャンペーンで台湾に行ってみたりして感じましたことは、いろいろな世界の観光のブースがたくさん出ておりまし

た。日本のブースもたくさんございますが、やはり本当に力を入れている大きな地区の括りの皆様というのは、本当に地方自治体の皆様が一生懸命お金を出してくださっているんだなということを感じてまいりました。今、どこの自治体も大変だということはよくわかっておりますが、パンフレットとかそれぞれの国に対する観光案内に関しても大変なお金がかかるわけでございます。私ども東北の場合は、おかげさまで観光推進協議会の皆様が出してくださっております。九州の皆様は「どうしておつくりになったんですか」とお聞きしましたら、これは各県が1,000万円ずつ出してつくってもらったというようなお話も聞いてまいりましたので、その辺ぜひこれから推進協議会の方にご援助いただければなと皆様をお願いする次第でございます。

ミクロの話だけちょっとお願いをしたいのですが、実は今回のビジット・ジャパン・キャンペーンの出席の旅館の数も、日本の市場に出てまいります件数が少ないということもよく承知しております。大野次長がやれるところだけやればいいのだというお話でございました。スタートはそうだと思いますが、非常にいい市場だということもみんなわかってまいりまして、きっとみんな出てまいり思っております。

私ども国際観光旅館連盟も本気になってこのインバウンドに取り組んでおります。そこで一番ネックになってまいりますのが、予約システムでございます。先ほど、東経連の遠藤委員のお話にありましたが、これから3年間ぐらいかけてよく研究をなさって、いわゆる総合案内の会社のようなものをつくるということでしたが、やはりそういうものがないとどうしてもだめだということでございます。まずこの予約システムを開発しようということで、私どもの連盟が俎上に上がりまして委員会も立ち上げましたが、この予約システムをつくるには3億円ぐらいのお金がかかるということございまして、一つの連盟だけではなかなか難しいということで、せっかく持ち上がった話も今ちょっと頓挫しているような形になっております。これが解決できますと、地方のすばらしい風光明媚な温泉地の小さな宿であっても、本当に元気に、戸惑いなくビジット・ジャパン・キャンペーンに大きな自信を持って参加できるようになるのではないかなと思うぐらい、やはり何力国語も言葉の壁でございますので、その辺の予約システムの構築をぜひ自治体の皆様、特に国土交通省におかれましてもお考えいただけたら大

変ありがたいなと思っております。

それからあと一つは、案内表示の件でございます。私どもが案内看板にローマ字を入れたいとか、そういうことを熱望いたしましても、自治体の区割り、道路の区割りがありまして、「ここまでは国の管轄でやってあげます」と。こっちの方も一番大切なところもやってくださいということをお願いしますと、いや、ここまでは市の管轄だとか県の管轄とか、いろいろございますので、中間報告にございますいわゆる美しい東北の顔をつくるためには、そういう点での国や自治体の連携も進めていただきたいと思います。以上です。

恩地部会長 お立場からして、そういうご要望が出るのだと思いますけれども、この辺につきましては、議論を大分続けなければならないところだと思いますので、承るということにしておきます。やはり3億円となりますと、1億円ずつ拠出したって国観連でも大変でございましょうから。でも、そういう前向きにとらえていただくという形ではよろしいかと思えます。

そろそろ迫ってまいりましたが、せっかくの機会でございます。高橋さん、そして藤岡さん、何かございましたら手短にご意見をいただければと思います。

吉野委員（秋田県高橋参事） 秋田県でございます。

まず、この報告の中に観光振興の意義とございますけれども、裾野の広い総合産業であるということで、本県においてもこれまで独自にいろいろな観光施策を進めてまいりました。ただ、具体的な成果が上がったかという、行政としてなかなかこれをはっきり断言できないのではないかという感じもいたします。そういう意味におきまして、広域的な連携という形で私の方と岩手県、青森県、北東北3県という形でやらせていただいております。それをまた広げるような形で東北という形で連携するということに対しては、当方としても大変意義のあることだと思っておりますので、可能な限り協力していきたいと考えてございます。

あと、一言言わせていただければ、言葉の問題ですけれども、うちの県におきましても英語は結構ありますが、すぐ隣国であります韓国語とか中国語となりますと、これから旅行者が増えてくることに対応できるような話せる人を果たして育てることができるのかどうかという危惧は私の方でも持っております、これが一つの課題ではないかなと考えてございます。

恩地部会長 海外誘致ということになりますと、当然そういうことも出てくるわ

けでございますね。

今、とにかく元気いっぱいの青森県、では最後にお話をとします。

竹森委員（青森県藤岡文化観光推進課副参事） まず、この報告書につきましては、1回目、2回目、いろいろと意見を申し述べさせていただいて、それを非常にうまくまとめていただきまして、本当にすばらしい報告書だと思っております。

今の緊急の課題云々という部分で青森県の今の取り組み等についてちょっとお話ししたいと思っております。

スキーの話もありましたが、スキーに関して申し上げます、今、秋田、岩手、青森、北3県でのテーマ地区で韓国に対する売り込みをしております。今年もまた2月にファームツアーを予定しています。それと別に青森県独自でまたファームツアーを実施して、平成15年と14年の青森・ソウル線の韓国人観光客の人数を比較しますと、5割アップという数は出ています。その要因自体は分析し切れないので、たまたまなのか、何らかの取り組みが功を奏したのか、そこは必ずしも明言できません。

そういった中で、連携とは、違いがあるから連携するんだということが基本なんだろうと思っております。最初、私どもの方で東北一体となってという部分だけが突出するのにいろいろな意見を申し上げましたが、東北ブランドという話が出た際にも、例えば東北のイメージが緑だとしても、青と黄色の絵の具を混ぜたような緑じゃなくて、青と赤と黄色の3原色がそれぞれ光輝いて緑を構成する。近づいてみると赤と青と緑がそれぞれ存在するという。できあいじゃない、それぞれが輝きつつ統一的なイメージを形成するという、そういった意味での連携を目指していきたいと思っておりますし、その方向で私ども青森県も頑張っていきたいと思っております。

この報告書の取りまとめにつきましては、本当に事務局の皆様方、どうも大変ありがとうございました。

恩地部会長 どうもありがとうございました。

事務局のご好意で八戸に行きましたときにお話しさせていただいたものをコピーでつけてございますので、ぜひお目通しをいただければありがたいと思います。

ありがとうございました。まだお話し足りない方もいらっしゃると思います

が、大変活発に、また前向きな建設的なご意見をいただけてまいったと思います。繰り返しになりますけれども、中間報告という形はここまでということであっても、これは最終ではないということで、また審議会の皆様にも先行きを期待していただけるような来期にしていきたいと思っております。

恒例によりまして、清水委員にお願いをいたします。

清水委員 本当にご苦労さまでした。

やるべき方向性について本当にクリアになったなと思います。どなたかお話がありましたけれども、要はこれをどうやって具体的に東北全体でどうするか、あるいは各県でどうするか、各観光地でどうするかということに尽きるかなと思います。それぞれがそれぞれの役割に応じてしっかり頑張っていくということが必要であると思います。こういう会議ですから過激なことは余り言わないようにしていますが、先ほど志賀委員がお話になったことがポイントだと思っています。とりわけ各県の方々とよく議論をする機会が最近多いのですが、それぞれの行政の方々がどういった形でお金を使い、どういった形でリーダーシップを発揮するかということで議論をさせていただくのですけれども、限られたお金の使い方というのは本当によく議論しなければいけないなと思います。先ほど野崎委員が遠慮がちに言っておられましたけれども、私どもから見ましても、もったいない使い方をしているなというのが結構ございます。先ほどありましたように、トータルでやる部分と各県でやる部分とそれぞれあるのですが、これはうまく使い方を考えないと、本来トータルでやるべきところを各県がばらばらにやって、いたずらに企画会社だけもうけさせて終わってしまうとか、そういったところがあります。この辺のお金の使い方を行政の方々にはぜひお願いしたいということ、あちこちの県知事さんに直接申し上げているのですが、やはりこの具体化の過程ではそれが一番実はポイントになるのではないかなと。

志賀委員からあったのは、まず宣伝で、まず送客ではなくて、まず地域づくりからだよということ、志賀委員はお話になったと思うのですが、観光というのは百年の大計でございます。はっきり申し上げまして、個性ある地域を壊してきたのが今までの観光だし、今までの流れだったと思いますが、そういった意味で、個性ある地域を復元するという意味では、相当長期間かけて、じっくり腰の据わったリーダーシップと金の使い方というのは不可欠だろうと思っております。そ

ういった意味でのそれぞれの機関、あるいはそれぞれのところでの役割というの
はあると思いますが、そのときの順番というものが、これから具体的な行動にお
いてしっかり議論されなければいけないのではないかと考えております。以上で
す。

恩地部会長 ありがとうございます。

先ほど桃生課長がお話になった「住んでよし、訪れてよしの東北づくり、国づ
くり」、これが今、清水委員のお話に連動するのではないかと考えています。自分が
観光を追っかけている立場でありながら、観光、観光ということが先行してあり
ますが、やはりこうなりますと、ぜひほかのセクションと一緒にあって国づく
り、地域づくり、まちづくりを考えていかなければ、観光の本当の意味での光は
輝かないのではないかとというあたりを、ひとつ各知事さん、市長さんにも「こん
なことを言うておりました」ということでお働きかけいただければ、今の清水委
員のご意見も生きるのではないかと、かように考えております。

名残惜しいのですが、もうそろそろということでございますので、お
おむね意見はここで出尽くしたということにさせていただきまして、事務局の方
で何か補足説明、ご意見ありますか。

事務局（江原企画課長） 本日は、またさまざまな貴重なご意見を賜りまして大
変ありがたく感じております。

前回からご議論になっていきます連携をどうするか、また役割分担という話もご
ざいました。非常に重要な点でございます、これ以降明確にしていく必要があ
るのかなというところでございますけれども、まだ中間段階ということで、なか
なか書き切れないような状況でございます。というのも、先ほど黒田参事からも
ございましたように、成功事例とかそういったものをもう少しじっくり見てみる
必要があるのかなということ、あるいは緊急提言で掲げていただいた施策、これ
をやる中で望ましい役割分担とか、あるいは連携のあり方というのがもっ
と見えてくるのではないかなと。要は緊急提言というものを踏まえた施策を展開
しながら、そのあたりを少しはつきりさせて、それを最終報告に反映させていき
たいと、こう考えておる次第でございます。

また、山川委員からございましたように、西日本の対策につきましても、さま
ざまなデータを分析する必要があるかなというふうに考えておりました、いろい

る情報提供いただく中で、東北に来るよりも北海道が安かったりとか、イメージがどうしても負けてしまっているという話があるようですので、そのあたりをもう少し文章に落とせるような、あるいは施策提言できるような形に詰めていく必要があると。ここも引き続き最終報告までに検討していきたいと考えます。

また、志賀委員からお話になりました、地域の良さをつくっていく、あるいは保全していくというお話でございます。サステイナブル・ツーリズムといいますが、今あるものの良さを残していくという点は非常に重要だと思しますので、このあたりも最終報告の中でどういう形でまとめていくか。非常に重要な点だと思しますので、またじっくりと考えてまいりたいと思っております。

私の方からは以上でございます。

恩地部会長 繰り返し事務局からご説明申し上げておりますように、今回は中間報告として、皆様のご意見を今度は次の機会の、いわゆる第2次の観光部会の方でまたご審議いただくということでご提示いただきましたことは、事務局が全部もう一度そしゃくさせていただくというお約束をすることによりまして、この中間報告（案）を本観光戦略部会の中間報告とすることにお許しをいただきたいと思いますのですが、いかがでございましょうか。（拍手）

ありがとうございました。それでは、この案をもちまして、本観光戦略部会の中間報告といたします。

これまで3回にわたって審議してまいりまして、ただいま緊急に実施すべき施策の提言を中心とした中間報告を取りまとめることができましたので、一言ごあいさつを申し上げさせていただきます。

昨年7月の第1回部会からわずか半年程度でこのような中間報告を取りまとめることができまして、これもひとえに委員各位のご協力の賜物と部会長として改めて感謝を申し上げたいと存じます。

地方交通審議会は、現在、各ブロックで開催され、観光を含めた議論が進められていると聞いておりますが、先ほどどなたかのお話もございましたが、このような早い時期に観光に関する中間報告の取りまとめを行うことができましたのは、この東北だけと聞いております。まことにご同慶の至りであります。

観光振興に関しましては、我が国のみならず世界各地でその経済効果や地域活性化における意義を踏まえ、その取り組みが活発化しているところであります。

そうした中で、東北について緊急に取り組むべき施策を中心とした中間報告を取りまとめることができましたことは、観光に関するグローバルな競争が激化する中、東北が他に先駆けて取り組みの指針を得られたということであり、非常に意義深いことだと考えております。また、先ほど来申し上げておりますように、来月にはその第一段が実施されるというようなことも大変喜ばしいことだと存じております。

このように迅速に緊急提言を取りまとめただけの背景として、やはり東北地方の観光関係者各位の中で観光振興の重要性や迅速な取り組みの必要性を共有できたこと、言いかえれば危機感を共有できたことが大きかったのではないかと考えております。

来期の観光部会で、この小さな花を香り立つ果実に、より一層の精査を深めていきたいと存じております。先ほどの議論にもありましたが、国の観光予算の増額は日本全国を対象としたものでありまして、各地域、各県もその獲得には戦術を練っておられることと思います。東北運輸局が東北のためにどれだけの予算を獲得できるかは、そのような積極的な姿勢を示すことが重要であると考えられます。

私事で、こればかりで恐縮でございますが、オーストラリアではほとんどの振興予算を1 to 1 でなされておりました。つまり民間や州が1を負担することによって、国が1を出すというような、いわゆる割り勘方式で計画を進めておりました。昨今、高速道路、新幹線建設等にこの方式に近いものがとられているやに聞いております。願わくば、この議論の中で具体策が1 to 1 で図られるような進展があるように期待をしております。

最後に、東北運輸局にお願いでございますが、こうして取りまとめられた中間報告を尊重し、どうか危機感を持って、緊急に講ずべき施策の推進に当たっていただきたいと存じます。

また、委員各位におかれましては、緊急に講ずべき施策に関する提言に基づく施策の実施状態や成果を踏まえつつ、今後、東北地方の観光振興の指針となる観光振興戦略の審議をお願いすることになります。各お立場からの積極的な、かつ活発なご議論、ご参画、そしてご後援をお願い申し上げたいと、かように存じております。

大変拙い進行役でしたが、皆様のご協力を心から感謝いたします。
どうもありがとうございました。

それでは、中間報告を久米東北運輸局長に差し上げたいと存じます。

(中間報告を恩地部会長から久米東北運輸局長へ手交)(拍手)

それでは、事務局の方へ進行をお返しいたします。

事務局(江原企画課長) ありがとうございました。

ただいま中間報告をお取りまとめいただきましたことにつきまして、東北運輸局長より一言お礼を申し上げます。局長、よろしく申し上げます。

久米東北運輸局長 恩地部会長をはじめ委員各位におかれましては、本部会におきまして東北地方の観光振興に関しまして活発なご審議をいただきまして、大変速やかに本日このような中間報告を取りまとめていただきましたこと、改めて御礼申し上げる次第でございます。

全国に先駆けましてこのような中間報告を取りまとめていただきまして、東北の観光振興に関しまして、緊急に講ずべき施策につきまして指針をいただきましたことは、私どもといたしましても非常に意義深いものと考えておりまして、これを十分活用いたしまして施策に反映していきたいと思っております。

きょうの審議で皆様からいろいろお話ございましたように、観光をめぐるグローバルな競争、そしてまた国内各地域との競争を勝ち抜くためには、何よりも的確な指針に基づきまして、スピード感を持って取り組むことが大変重要だというふうに考えております。

政府全体といたしましても、20億円から32億円と。これは、非常に財政難の折にこういうことをやったということは、選択と集中の中で政府全体として観光を重要な施策と選択いたしまして、これにリソースを集中して投下するという話でございます。これは、先ほど大野次長からも話をいたしましたけれども、護送船団とは相反するものでございまして、そのやり方につきましては、満遍なくということではなくて、効果的なところにリソースを集中して投下するというやり方になってくるわけでございます。そういった意味で、地域間の競争というのは大変厳しいものがあるわけでございまして、しかもビジット・ジャパン・キャンペーンというのはジョイントベンチャーでございますので、各自治体、そしてまた

各民間と国がジョイントして行う事業ということでございますので、先ほど恩地部会長からもお話ございましたように、国の部分がふえたから自動的に地域の部分がふえるわけではなくて、その努力に応じて国の資金が分配されてくることが基本だと思っておりますので、私どもといたしましても皆様方に今後ともぜひ強力なご支援を賜りたいとお願いいたす次第でございます。

それから、きょうの議論、また前回の議論等も含めまして、やはり「連携」、そして「ブランド」というところがかなり議題になってきていると思います。これは、魅力をアップするということが各地域がご努力いただくということは大変重要なことございまして、今回の中間報告におきましてもそれを否定するものではなくて、逆にぜひそのところを一層頑張ってくださいということをお願いするものでございますけれども、非常に限られたリソースにつきまして、これを効果的にマーケティングを行うといった場合には、マーケティングの戦略として「ブランド」、そしてまた「連携」というものが必要となってくるわけでございます。そういった高度なマーケティングというものが、今後、観光としては非常に重要なところになってくるわけでございます。そのマーケティングの戦略としてぜひこの「連携」、そして「ブランド」ということをとらえていただきまして、各地域のご努力を全く否定するものではございませんで、各地域の一層のご努力をうまく効果的にやっていくために必要な素地だということで、これにつきましてはまた最終報告に向けていろいろご検討を賜ればというふうに思っているところでございます。

したがいまして、私どもといたしましては、特に緊急に講ずべき施策に関する提言に基づきまして、各施策を速やかに実行に移していくことは何より大切というふうに考えておりまして、実際に緊急に講ずべき施策ということでご提言いただいた施策の中には、例えば「東北6県が一体となった強力なインバウンド・イベントの実施」につきましては、この部会の直前に清水部会長代行を委員長といたします「YOKOSO! JAPAN 東北」実行委員会で2月のイベントの骨格を固めていただいたわけございまして、また、スキー場の再活性化、あるいは仙台カード、八戸カードの導入に関しましても検討の場を設け、着実に進めているところでございます。

委員各位におかれましても、それぞれのお立場から、また相互に密接に連携を

とっていただきまして、緊急に講ずべき施策に関する提言に掲げられた施策の強力な推進をお願いいたしますとともに、最終報告に向けた本部会での議論を今後ともお願い申し上げる次第でございます。

以上をもちまして、私からのごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

3. 閉会

事務局（江原企画課長） ありがとうございます。

それでは、閉会の前に事務局から2点ほどご連絡を申し上げます。

まず、運輸局幹部の異動がございますのでご紹介させていただきます。

急ではございますけれども、次長の大野が2月1日付で北陸信越運輸局の方に異動することになりました。次長から一言ご挨拶を申し上げます。

大野東北運輸局次長 大野でございます。大変お世話になりました。

新潟市に新潟、富山、石川、長野の4県を管轄区域といたします北陸信越運輸局がございます。今回、急遽行けということで、わずか半年で新潟の方に移ることになりました。

きょうの話題、観光でございます。インバウンド、非常に力強いようでございます。JALさん、JTBさんがいらっしゃる中で申しわけないのですが、去年の上期というのはSARSとイラク戦争の影響でインバウンド、アウトバウンドともに潰滅的な影響を受けたのですが、アウトバウンドは大分よくなってきたと言っていますけれども、要するにまだ戻り切っていないわけです。ところが、インバウンドは8月ぐらいからプラスに転じまして、特に9、10、11、12月の4カ月というのは毎月12～14%ぐらい伸びているのですね。これというのは、5年続きますと大体82%増になるぐらいの水準です。結局アジアというものの市場の大きさというものが、日本発よりアジア発というぐらいになってきている。完全にその端緒だと思っています。東北地方というのは、インバウンドはある意味出おけているのですが、そろそろ九州や北海道は飽きたという人はたくさんおりますので、そういう意味では、ちょうどいい時期にビジット・ジャパン・キャンペーンを始めたいと思います。しかし、訪日外国人旅行者が増えているといっても、それが東北に来るという保証は全くございません。どこへ行っているかわかりませんので、

それが東北に来るようにということでぜひ頑張っていたきたいと思います。

ただ、私も今度、新潟の方に参りますので、東北の皆さんに負けないように、今度はライバルとしてやっていきたいと本当は言いたいところですが、先ほど申し上げました4県は経済圏が異なるため、東北のようにまとめることは困難だと思っております。これを無理やりまとめても、うまくいかない。新潟はできたら東北7県として入れていただいて、北陸の2県は北陸3県として動いていただくというような地域でございます。

私申し上げたいのは、各県の方からすれば、「いや、連携というのは難しい面がある」という話もわかりますが、東北は東北としてまとめられる地域であるということは、ものすごく幸せだと思うのです。私は個人的に、多分、北陸信越地域というのは、とてもまとめられないと思います。逆に、例えば私がまとめようとしたら、これは失敗するし、地域にとってマイナスになると思います。そういった意味で、まとめればプラスになる地域であるということが、東北にとって非常にいいことなのだということをぜひ考えていただいて、今後も一生懸命やっていただければと思っております。

新潟も隣でございます。北陸信越も連携していきたいと思っておりますので、今後ともぜひよろしくご指導をいただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

事務局（江原企画課長） ありがとうございます。

それでは最後に、次回以降のスケジュールでございますけれども、本年度のこの部会は今回で最後でございます。また次年度以降、最終報告に向けたご審議を賜りたいと思っております。日程等につきましては、また調整をさせていただきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

委員の皆様には長時間のご審議、ありがとうございました。

それでは、閉会といたします。

どうもありがとうございました。